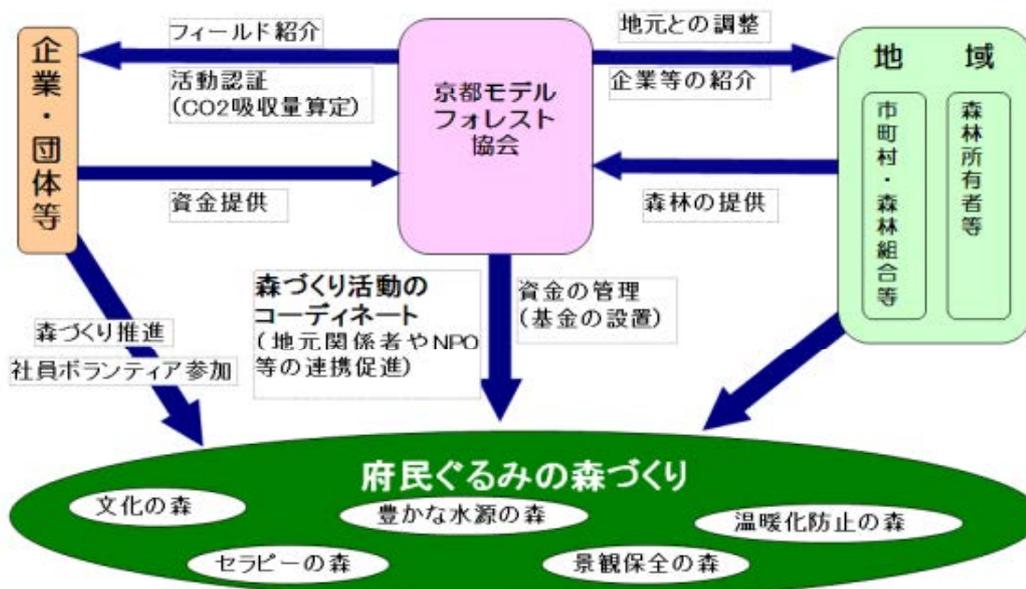


里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

分類	(地域レベルでの取組基盤の整備)広域的な枠組みの整備
手法名	京都モデルフォレスト運動 企業・団体と地域をむすぶ府民ぐるみの森づくりの仕組み
主体	京都府、公益社団法人京都モデルフォレスト協会
背景 (地域の課題)	森林には様々な公益的機能があるが、それは健全な森林であることが前提である。しかしながら京都府内では放置された森林が増加している。これらを整備し健全な森林を増やす必要があるが、森林所有者だけでは限界があり、多様な主体の参加が不可欠である。一方で、企業のCSR活動や都市住民の活動として森林や里山保全活動への潜在的な要請もあり、そのコーディネートにより、より多くの府民が参加して森づくりが進められるような仕組みが必要である。
手法/方策の詳細	<p>京都モデルフォレスト協会は、府内の放置された森林の適切な管理と活用のため、社団法人として多様な主体の連携による府民参加の森づくり運動「府民みんなで京都の森林を守り育み、木材の循環利用を促進する」府民運動を進めている。</p> <p>協会のコーディネート機能として、森づくりに取り組む団体や企業と森林所有者を結びつけ、森づくり活動の仲立ちを行い「企業の森づくり(森林利用保全協定)」へと導いている。 企業の森づくり活動では地元の人が必ず参加して作業指導などを行い交流することにより、継続する関係づくりの構築に努めている。</p> <p>また、「京都府森林吸収量認証制度」によるCO2吸収量算定による活動認証も行っている。 これは、「京都府温暖化対策条例」で、事業者排出量削減計画書及び報告書において、通常の方策に加え、森林の保全及び整備と府内産の木材の利用を補完的手段として位置付けていることから、府の業務の一環として、当協会が、事業者の森林整備活動によりCO2吸収量を認定するもの。 計算式は 二酸化炭素吸収量＝森林面積×幹材積×枝根係数(拡大係数)×容積密度×炭素含有率×44/12 で、例えば30年生のスギ林、1haを間伐した場合、11.18CO2tを吸収したことになり、事業者は、排出量の算定に加味することができる。</p>
手法・技術的視点	公的機関であること、また、京都府の協力を得ていることによりコーディネートの信頼性が増す。温暖化対策に関する独自の条例制定により、森づくり活動へのインセンティブを準備し、企業参加を促進している。

森林づくり活動への参加の仕組み



参考資料	里なび研修会in京都 栗山真幸 公益社団法人京都モデルフォレスト協会事務局次長
------	---